



しろね図書館だより

No. 206

～Since 2000～

発行 新潟市立白根図書館

新潟市南区田中383 電話 (025) 372-5510

shirone.cl@city.niigata.lg.jp

2017年7月発行



くらしのなかに図書館を

夏は、図書館へGO!

夏のスペシャルおはなし会

日にち 7月29日(土)

時間 ①11:00～ ②11:30～
③14:00～ ④14:30～

- ①と③は絵本のよみかたり
(ちいさい子むけ)
- ②と④はおはなしをかたります
(ひとりできける子から)

場所 白根図書館 おはなしのへや

☆申し込みは不要です。
当日会場へお越しください。



図書館員になってみる日

「図書館の仕事って何をしているの？」

「司書の仕事体験してみたい!」と思っている方、
夏休みの半日、図書館員になってみませんか?

日にち 8月6日(日)

時間 午前の部 9:00～11:30
午後の部 13:00～15:30

対象 小学4～6年生 ※各回先着4名まで

申込み受付 7月19日(水) 午前10時～

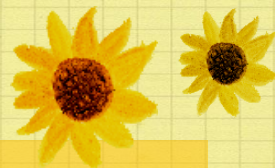
☆電話 (025-372-5510) または白根図書館窓口で
お申込みください。(定員になり次第、受付終了)

としょかん探偵局

期間 7月22日(土)～8月31日(木)

「自由研究、何にしようかな?」「読書感想文はどの本にしよう?」など、
夏休みの宿題でお困りのことはありませんか??

図書館司書があなたの探しもの・調べもののお手伝いをします!!
気軽にいつでも職員に声をかけてください!

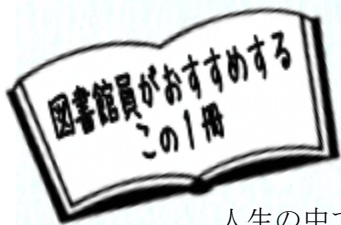


コミュニティオアシス

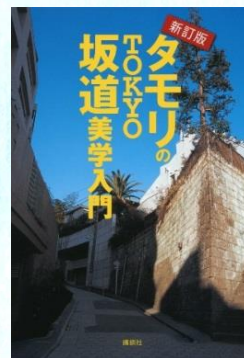
7月1日(土)～9月30日(土)

今年もコミュニティオアシスとして図書館をご利用ください。
期間中は、熱中症対策のため図書館内でふたつきの飲み物が飲めます!





『タモリのTOKYO 坂道美学入門 新訂版』



タモリ/文・写真
講談社

人生の中で「そうだ！坂道を歩こう！」と思い立って、歩きに行くことはまれかもしれない。

けれども何かのついでにどこかで坂道に出会うことはあるかもしれない。そんな時この本をぜひ思い出してほしい。

タモリさんの坂道に対する思いを感じながら、坂道周辺をぶらっと散歩してみるのも楽しいかもしれませんよ。
(早川)



「ひまわり」

親子で楽しめるえほん



荒井真紀/文・絵
金の星社

夏の太陽に映えるひまわり。大きいものだと一本から 2000 個もの種がとれるそうです。

光を多く浴びようと葉は重ならないように上手に並んでいて、花は1枚1枚順番に開いていきます。一輪に見える花は実は2種類の花からできていることには驚きです。

種から花を咲かせて新しい種をつくるまでを美しい細密画で描いた絵本です。
(大木)

今月の展示
7/6~8/1

ひんやりする本

暑い季節になりました。
心や体がひんやりするような本を集めました。

☆白根図書館 8/3 までの行事☆

白根図書館休館日 毎週金曜日・毎月第1水曜日

7/7(金) 7/14(金) 7/21(金) 7/28(金) 8/2(水)

おはなしかご例会

毎月第2・第4土曜日

※白根図書館で活動しているボランティアグループの勉強会です。

7/8(ルーム4.5) 午前10時~

7/22(ルーム4.5) 午前10時~

おはなしのじかん
毎週土曜日

絵本のおよみかたり
午後2時~
ストーリーテリング
※おはなしをかたります。
午後2時30分~

読書会
(毎月第3日曜日に開催)

7/16(ルーム2) 午後2時~

7/29(土)
夏のスペシャルおはなし会

ブックスタートは 7/6(木)です。

赤ちゃんタイム 毎週土曜日 午前11時~午後2時30分

6月の来館者数...9,904人

6月の読書会
6月18日(日)
参加者 25名

第200回記念読書会



白根図書館
読書会報告
NO.200

テーマ：私の大切な1冊の本



◆ 『モーツァルトの手紙』 ◆

モーツァルト／著、柴田治三郎／編訳（岩波書店）

天才作曲家として有名なモーツァルトだが、文才もすごい。

これを読んだ後にモーツァルトの曲を聴くと、曲の理解も一層深まる。



◆ 『聖書』 ◆

（日本聖書協会）

生涯で10回・20回と繰り返し読める本を探していた。

『聖書』はその1冊。

何度読んでも新しい発見がある。

この本に出会えたことが幸せだと思う。

◆ 『名探偵ホームズ全集』 ◆

コナン・ドイル／原作、山中峯太郎／訳著、
平山雄一／註（作品社）

書かれてから130年ほどたっているが、今も世界中で親しまれている作品。

いろいろと批判もある訳著だが、この訳ならではの面白さがあると思う。



◆ 『対話する社会へ』 ◆

暉峻淑子／著（岩波書店）

『サンタクロースってほんとにいるの?』の著作でも知られる作家。

対話を失った社会がどれだけ危険か、対話の必要性を書いている。

◆ 『はてしない物語』 ◆

ミヒャエル・エンデ／作、上田真而子／訳、
佐藤真理子／訳（岩波書店）

小学校の高学年の頃、姉に勧められて読んだ。

主人公が、この本とまったく同じ見た目の本を盗むところから始まる話。

本が好きになったきっかけの本。

◆ 『街の灯』『玻璃の天』『鷺と雪』 ◆

北村薫／著（文藝春秋）

母が、この本の主人公ベッキーさんと同年代で、読んでいると母が過ごした時代を感じられる。

ご飯を食べるのも、出かけるのも忘れて読んでしまうような楽しい本。

◆ 『日本の思想』 ◆

丸山真男／著（岩波書店）

目からウロコがボロボロ落ちるような話がたくさん書かれていた。

戦後に書かれた本だが、今読んでも汲み取れるものが多い本だと思う。



◆ 『大草原の小さな家』 ◆

ローラ・インガルス・ワイルダー／作、
恩地三保子／訳、ガス・ウィリアムズ／画
（福音館書店）

子どもの頃にも読んだが、大人になってハマった本。一家のお母さんが、広大な自然の中で、娘たちを野生児ではなく、立派なレディーに育てている姿も、同じ母親としてすばらしいと思う。



◆ 『啄木歌集』 ◆

石川啄木／著（岩波書店）

短歌が趣味なのだが、自分を短歌の道に導いてくれたのが石川啄木。啄木の短歌を読むだけでも、その人となりが見える。

きっと短歌が好きになる1冊。



◆ 『エンザロ村のかまど』 ◆

さくまゆみこ／文、沢田としき／絵（福音館書店）

ケニアで30年、日本のかまどの技術などを教え、活躍した女性の話。おばあちゃんから学んだ暮らしの知恵をケニアで伝承したという実話。

小学生に勧められているが、大人が読んでも感動する。

◆『ウエズレーの国』◆

ポール・フライシュマン／作, ケビン・ホークス／絵,

千葉茂樹／訳 (あすなる書房)

いじめられても自分の道を突き進んでいく主人公ウエズレー。あるとき、自分の文明を作り出す。小学生に、この話のように他の人と違ってても良い。自分は自分で良いということを知ってほしい。

◆『ブンナよ、木からおりてこい』◆

水上勉／著 (新潮社)

カエルのブンナが木に登ると、そこはトビの餌の中継所になっていた。半死でトビに連れてこられた、スズメやモズたちの姿を目の当りにするブンナ。木の上で繰り広げられる、生死の物語。

◆『子どもに語るグリムの昔話』◆

グリム／著, 佐々梨代子／訳, 野村滋／訳
(こぐま社)

図書館で、大人のためのおはなし会に参加し、そのときにグリムの話にひっかかった。子どもの頃はグリムの話に興味がなく、陳腐な話に思っていたが、大人になってから読むと、心に響くものがあった。

◆『人間の土地』◆

サン=テグジュペリ／著, 堀口大樹／訳 (新潮社)

郵便飛行士として空の上から眺めた様子を書いた、エッセイのような本。

人間が、生きているなかであたりまえに判断していることを、サン=テグジュペリは違う視点から見ている。

◆『安吾碑を彫る』◆

丸山一／著 (考古堂書店)

寄居浜にある安吾碑。誰が、何のために作ったのが書かれた本。

彫られている「ふるさとは語ることなし」は、もともと長い文章の中から選んだ一文。

◆『莊子』◆

福永光司／著 (中央公論社)

莊子は弱い国に生まれ、不自由な人生だったからこそ、自由に生きたいと願っていた。

「争いなどもあるが、万物はみな等しい」という思想が、莊子の根本思想であると思う。



◆『老いのかたち』◆

黒井千次／著 (中央公論新社)

老いの品位や風格は、一定の年齢に達すれば、誰もが自然ににじみ出てくるものではない。老いを育てるプロセスが大事。

◆『子どもに聞かせる世界の民話』◆

矢崎源九郎／編 (実業之日本社)

白根図書館のおはなし講習会で、この本の『ヤギとライオン』に出会った。

このおはなしに出会わなければ、ストーリーテリングをしていなかったかもしれない。

◆『サンタクロースの部屋』◆

松岡享子／著 (こぐま社)

友人が手渡してくれた本。

とても良い本だったので、読みきかせに行った際に、子ども連れのお母さんにおすすめしたところ、借りて行ってくれた。自分が人から手渡された本を、さらに知らない人に手渡せたということに感動した。

平成12年から始まった読書会は、6月18日(日)で200回を迎えました。当日は読書会を発案された栗村節子さん(元白根図書館長)と共に、市内各地から本好きな人が集まりました。本の話は尽きることなく、時を忘れるほどの会となりました。※後日、第200回読書会記念誌が「しろね図書館友の会」から発行されます。ぜひご覧ください!

次回の読書会

☆7月のテーマ☆ 「無人島へ持っていきたい1冊」

7月16日(日)

時間: 午後2時~4時

会場: ルーム2

読書会は好きな本を持ち寄っておしゃべりする、午後のお茶会のような集まりです。

申込みはいりません。気軽に本の話を楽しみましょう。

読書会は、しろね図書館友の会との実施事業です。

しろね・おはなしかご特別例会 報告

日時:6月17日(土)
午後3時~5時
会場:プレイルーム
参加者:21人

こんなおはなし聞きました! ~ストーリーテリング プログラム~

- ①「ピンチョロリン」 出典:『とんと昔物語』(村の風土記刊行会)
- ②「ねこの王さま」 出典:『ジャックと豆のつる』(岩波書店)
- ③「ふるやのもり」 出典:『おはなしのろうそく 4』(東京子ども図書館)
- ④「お百姓とえんまさま」 出典:『こども世界の民話 下』(実業之日本社)
- ⑤「洪水」 出典:『子どもに贈る昔ばなし 4』(小澤昔ばなし研究所)

★「おはなしのじかん」やってます! (毎週土曜日・白根図書館おはなしのへやで開催)
午後2時~ 絵本のおよみかたり
午後2時30分~ ストーリーテリング



大人の方もお気軽にお越しください!



味方地区図書館だより

2017年 7月

〒950-1294 新潟市南区味方 1544 (味方出張所内) 電話: 025-373-4788

開室時間: 午前9時~午後9時30分

味方地区図書館は、午後9時30分まで開室しています。
夏休みにはご家族みんなで、気軽にご利用ください!



★おすすめ図書のご案内★



『ケータイくん と フジワラさん』
市川宣子 / 作、
みずうちさとみ / 絵
(小学館)

電器屋さんでは最新のケータイ電話たちが売れていきますが、古いガラケー電話のケータイくんは1年も売れっこっています。そんなある日、ひとりのおじいさんがやってきて…。



『劇場』 又吉直樹 / 著 (新潮社)

演劇を通して世界に立ち向かう永田と、その恋人・沙希の不器用な恋を描く。夢と現実のはざまでもがきながら、かけがえのない大切な誰かを想う、切なくも胸にせまる恋愛小説。



『ずぼらヨガ 自律神経どこでもリセット!』 崎田ミナ / 著、福永伴子 / 監修 (飛鳥新社)

ずぼらでも運動嫌いでも簡単に続けられるヨガを、イラストで紹介。著者が実践して効果のあったヨガ・ストレッチを厳選した1冊です。

月潟図書館だより

2017年 7月

編集・発行 新潟市立月潟図書館

〒950-1304 新潟市南区月潟 1417 番地 電話：025-375-3001 FAX：025-375-1060



7

月の企画展示

「水と氷の本で、目から涼しく！」

水や氷が作るものや風景、そこに生きる動物たちの本などを集めました。

9月30日まで
月潟図書館内の席で
持参した飲み物が飲めます！



7月から9月の暑い時期は、熱中症対策の一環として月潟図書館内でペットボトルなどのふたつきの飲み物の持ち込みが可能です。お席で水分を補給しながら、涼しい図書館で暑い夏を快適に過ごしませんか。

🍍🍓🌻🍍🍓🌻 たのしい 夏休み！ 🍍🍓🌻🍍🍓🌻

「風鈴をつくろう！」

画用紙を使ってオリジナルの風鈴をつくろう！

日時：7月30日（日）午前11時～正午

場所：月潟図書館 視聴覚室

対象：幼児～小学生 先着10名

申し込み：7月20日（木）午前10時以降に月潟図書館（電話 375-3001）へ電話か窓口でお申込みください。

こわ〜いおはなし大会

日時：8月10日（木）

午後7時30分～8時15分

くら〜いとしょかんには7時20分から入れます。

場所：月潟図書館 視聴覚室

対象：どなたでも

申し込みはいりません。当日直接図書館へおいでください。おばけが出てくる夏にぴったりのおはなし会です。プレゼントを用意してお待ちしています。

☺ 図書館は身近な疑問から調査研究まで、資料探しのお手伝いをします。お気軽にお声掛けください。

月潟図書館

7

月の休館日（翌月の図書整理日まで）

休館日 毎週月曜日・毎月第一水曜日
国民の祝日

開館時間

10日（月）、17日（月・祝）、18日（火）、24日（月）、31日（月）、
8月2日（水）

火曜～金曜：午前10時～午後7時
土曜～日曜：午前10時～午後5時

おはなしの
じかん

◇毎月第2・4木曜日午前11時～午前11時30分 場所：視聴覚室
◇毎週土曜日午前10時30分～午前11時 場所：視聴覚室

赤ちゃんタイム
毎週木曜日 午前10時～正午
場所：視聴覚室